

医療技術系大学生が受講する「ヒューマンコミュニケーション：社会人としてのマナーを学ぶ」の授業方法と課題 —学生の授業評価より—

關戸啓子，安原由子

(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)

1. はじめに

「ヒューマンコミュニケーション：社会人としてのマナーを学ぶ」は，将来の看護職・診療放射線技師・臨床検査技師を目指す医療技術系大学1年生が受講している。この教科においては，教員が知識を伝授するという授業方法ではなく，学生がグループワークを通して，自らが望ましい答えを導き出せるように授業方法を工夫している。医療技術系大学生が受講しているため，授業の内容も一般的な社会人としてのマナーから，医療のなかで必要なマナーまで含めている。本授業について，授業評価を行ったので報告する。

2. 「ヒューマンコミュニケーション：社会人としてのマナーを学ぶ」の授業方法

1) 授業の目的

将来の医療従事者として必要な人間力を高め，学生自らのコミュニケーション能力を向上させるため，本授業ではまず社会人としての基本的なマナーを学習することを目的とする。患者や同僚・他職者と良い人間関係がとれるようになる一助とする。

2) 到達目標

- (1) 社会人として必要なマナーについて説明できる。
- (2) 社会人にふさわしいコミュニケーション方法について説明できる。
- (3) 患者と良い人間関係を築くために必要なマナーや態度の概要が説明できる。
- (4) 職場で良い人間関係を築くために必要なマナーや態度の概要が説明できる。

3) 単位，時間数，受講学生

2単位，30時間

看護学専攻，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻の1年生（選択科目）

4) 授業方法

授業方法は，参加型のワークを基本として，学生自らが望ましいマナーや態度，コミュニケーションについて検討し，最も望ましいと考えられる方法を導き出すという流れで行っている。具体的には，まず出された課題について，グループで検討し，検討した結果を発表する。その課題に関する基礎知識を教授する。この基礎知識や他のグループの発表内容から，さらに望ましい方法や書き方，態度などを導き出す。

5) 授業計画

- (1) 導入，グループ分け，グループワークの進め方について
- (2) 「気持ちの良いあいさつをする」ためのグループワーク
- (3) 最も望ましい「気持ちの良いあいさつをする」方法の検討
- (4) 「教員へ送信するメール」を作成するためのグループワーク
- (5) 「教員へ送信するメール」の最も望ましい書き方の検討
- (6) 「教員へ報告の電話をする」ためのグループワーク
- (7) 「教員へ報告の電話をする」最も望ましい話し方の検討
- (8) 「懇親会のご案内」の手紙を作成するためのグループワーク
- (9) 「懇親会のご案内」の最も望ましい手紙の検討
- (10) コミュニケーションの体験：思いやりゲーム

- (11) 社会人としての医療従事者のマナー(基礎知識編):患者に対して
- (12) 社会人としての医療従事者のマナー(基礎知識編):職場において
- (13) 臨床現場における「課題事例※」への対応方法を考えるグループワーク
- (14) 臨床現場における「課題事例」への望ましい対応方法の検討
- (15) 授業のまとめ

※臨床現場における「課題事例」は、外来で待ち時間が長く、さらに少し席をはずしたために、自分の順番が後回しにされてしまった患者への対応を取り上げている。

3. 「ヒューマンコミュニケーション: 社会人としてのマナーを学ぶ」の工夫点

グループ内で多様な意見が出るように、目指す専門職が違う学生が同じグループになるようにしている。また、1年生であることから、学習した内容がすぐに大学生活で役立つような課題を出している。さらに、臨床現場における課題は、専門職の違いに関係なく、病院で経験する可能性の高い課題を選択して用いている。

4. 「ヒューマンコミュニケーション: 社会人としてのマナーを学ぶ」の授業評価(調査方法と結果)

授業評価は、授業最終日の2011年7月に無記名で実施した。学生に、研究の趣旨・協力は自由意思であること・協力の有無は成績とは無関係であること・プライバシーは守られること・研究結果は発表されることを説明した。その上で、研究協力を同意する学生は、研究協力同意欄に○を付けて提出するように依頼した。授業評価は5項目で、「思う」から「思わない」までの4段階で回答を求め、「思う」から順に4～1点を配して得点化した。

授業評価の用紙は、看護学専攻の学生67人に配布して、66人から提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは56人であった。放射線技術科学専攻の学生30人に配布して、29人か

ら提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは26人であった。検査技術科学専攻の学生16人に配布して、全員から提出があった。そのうち、研究に同意が得られたのは14人であった。

専攻別の平均得点は、表1に示すとおりであった。

5. 考察

授業評価のどの項目においても、専攻による有意差はなく、目指す専門職に共通する課題を選定していることがこの結果につながったと考えられた。さらに、将来の職業に役立つと高く評価されており、グループワークの課題選定については問題ないことが示唆された。本授業の特徴である、学生参加型の授業に対する評価も3.5以上あり、有効な授業方法であると思われる。全体的にみると、興味を持って受講できたという項目に対する評価は、3.5以下であり、少し低めであった。グループワークを中心に授業を進めているが、受講生が多いため、積極的にワークに参加しないと興味が薄れるのではないかと推察された。

6. 今後の課題

今後の課題として、グループワークに全員が積極的に参加できるように、教員が関わっていく必要性がある。

表1 授業評価の結果

	看護学専攻 [n=56]	放射線技術科学専攻 [n=26]	検査技術科学専攻 [n=14]
興味を持って受講できた	3.45 (0.56)	3.35 (0.48)	3.50 (0.50)
参加型の授業方法は良い	3.63 (0.48)	3.54 (0.50)	3.64 (0.48)
将来の職業に役立つ	3.79 (0.45)	3.65 (0.48)	3.93 (0.26)
受講して良かった	3.66 (0.51)	3.65 (0.48)	3.86 (0.35)
内容はわかりやすかった	3.68 (0.47)	3.62 (0.56)	3.57 (0.62)

()内は標準偏差

群間に有意差なし(Kruskal-Wallis検定)